



見るほどハみしかきあしのふしの間も  
なみに入江の三日月の影

宣長



ふとそひ  
梅さくま  
ふりそむるけふの初雪わかやとに

大平

梅さくまでハきえすもあらなむ

5 待郭公和歌短冊 高野長英



保登、喜須ま川に日数をたち花乃(ほどゝきすまつにひかすをたちはな)  
志の婦に本飛越もら須夜も可那 三泊(し)のふにほひをもらすよもかな)

待郭公

留後通至中天則色亦漸微而消散此益久  
之矣北虜當時始有圖南志矣距今寶三十  
八年而後有林子平者慷慨之士也憂心  
虜禦持其所著兵談與人言感泣十餘牛及  
年老念空終臚下而上之人莫已知乃上其  
書本以露之於世其志盖由此身必行次言  
而死於虜不憾當殺身以警朝廷求罷事  
既死後數年而官家用其言有事於蠻夷  
又十餘年而有今日之安馬變之紀豈无一  
朝一夕之故哉官家先今日有事於蠻夷  
則震其變也而幽死林子平之冤天下之義  
謂之何其宜祭其墓而謝其靈授之以勲位  
可以微慰天下忠義而用其言矣今如秀譽  
一介書生性極狂疎於於何然竊嘗識大  
下三擧請獻三策以致恩忠幸其見裁擇明  
奏字有微効矣為  
君為邪敢化萬死不暇自顧誰陳其情不  
任戰戰惶惶之至

文化丁卯夏六月蒲生秀美頓首謹言

下野布衣蒲生秀美再拜頓首謹上書

執政吉田從四位閣下 蓋聞之 一治一亂自  
古其常、然自天地之剖分、而神州有  
天子之受天命焉、而伝祚長久、無有窮極、  
雖世有盛衰道有汚隆、而皇天代佐之、以賢  
率良相、不喪其神器、不墮其民命、不卑其  
國体、未嘗有禽獸横虐人類、未嘗有夷蚩戎  
狄侵寇中土、奈之何乃至於今、可獨堪夫魯  
西亞豺虎之暴於北邊哉、是天下忠義慷慨  
之士、人人所以切齒扼腕而憤也、自我

東照神祖之輔  
王室靖天下之難、而置征夷帥府於江戸、  
率諸侯以鎮海內、至於今二百年之治、赫赫

其殷、於是方有邊寇、國始兒兒、夫無貴賤生  
在今日、孰不蒙其德、深樂其太平、苟有人  
心而顧之乎、其宜致身尽忠、以報万一、凡有  
謀略者、犯敵威以獻良策焉、凡有材武者蒙

矢石以建忠功焉、凡其有財貨者、挾家產以  
資軍興焉、夫然後天下之患可以除攘矣、嗚  
乎、自弘安有蒙古之猖獗西邊、五百年之  
後、今方復有夫魯西亞之暴於北邊矣、夫魯

西亞者不猶蠶蒙古嘗溺其水軍十萬波濤  
之怒乎、神州固天命之所全福、宗廟及山川百  
神百祀有差焉、而天下忠義慷慨之士、食不知  
其鬼、且以為凡變之起、必先有其徵矣、惟豪

文化丁卯夏六月 蒲生秀美頓首謹言

- ・各展覧会図録中、作品名や作者、制作年などの表記は、図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は、書籍と同様に出典を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお、図版を営利目的の販売品や広告、また個人的な目的等で使用することはできません。

## 志士たちの書画

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 18

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十年一月十日発行